SUPER GT LEXUS TEAM TOM'S 総監督
関谷正徳
Age 65

SUPER GT500 KeePer TOM'S RC F
平川亮
Age 21

SUPER GT 300 TOYOTA PRIUS apr GT
中山雄一
Age 23

SUPER GT500 KeePer TOM'S RC F
アンドレア・カルダレッリ
Age 25

Masanori Sekiya

1949年11月27日生まれ。静岡県出身。1958年からレーシングチーム「トムス」所属のレーサーとして活躍。1995年のル・マン24時間耐久レースで、日本人初の総合優勝を果たす。全日本ツーリングカー選手権では2度のチャンピオンに輝き、全日本GT選手権でもチームトムスをシリーズチャンピオンに導いた。平成12年に引退後はトヨタ・ドライバー育成プログラム（FTRS）校長、SUPER GTのトムスチーム監督を務める。

Ryo Hirakawa

1994年3月7日生まれ。広島県出身。2008年、全日本ジュニアカート選手権でデビューウィン、シリーズタイトルを獲得。翌年、フォーミュラトヨタ・レーシング・スクール（FTRS）を受講。史上最年少（16歳1ヶ月）で、JAF国際限定Aライセンスを取得。2012年に参戦した全日本F3で、チャンピオンとなる。2013年、スーパーフォーミュラへとステップアップ。今季のSUPER GTのGT500クラス開幕戦でポール・トゥ・ウィンを達成。

Yuichi Nakayama

1991年7月25日生まれ。東京都出身。5歳でキッズカートをはじめる。2008年、16歳で4輪デビュー。2010年はFCJで10勝を達成し、2012年は全日本F3のCクラスで6勝を挙げてシリーズ2位。2013年は11勝を挙げてチャンピオンに輝いた。2014年、スーパーフォーミュラへステップアップ。今季は加えてSUPER GTのGT300クラスにフル参戦。開幕戦で優勝を果たす。

Andrea Caldarelli

1990年2月14日生まれ。イタリア出身。2000年から4年間カートレースに参戦、2005年には母国・イタリアのフォーミュラアッズーラで4輪デビューを果たし、最年少優勝記録を達成。2011年にフォーミュラ・ニッポンでデビュー。2012年はSUPER GTのGT500クラスにデビュー、2013、2014年にはGT（フル参戦）とスーパーフォーミュラ（両年とも2戦）に参戦。今季、スーパーフォーミュラフル参戦を果たし、SUPER GT500クラス開幕戦で優勝。

SUPER GT 2015 開幕戦
GT500・GT300の若き覇者たち

SUPER GT 2015 シリーズが４月４・５日、岡山国際サーキットにて開幕した。開幕戦のウィナーは、GT500は「#37 KeePer TOM'S RC F」の平川亮選手とアンドレア・カルダレッリ選手、GT300は「#31 TOYOTA PRIUS apr GT」の嵯峨宏紀選手と中山雄一選手。５月３・４日の富士スピードウェイでの第２戦でも的確な走りを見せ、それぞれ６位、４位にランクイン。ポイントリーダーの座を確保した。次世代のレース界を担う若手ホープの３選手と彼らを支える関谷監督にモータースポーツの魅力について聞いた。

Q 選手3人とも、若くしてカーレースに出場していらっしゃいますね？きっかけはなんですか？

中山：僕は5歳のときからカートをはじめてキッズカートレースとかジュニアカートレースに出場していました。平川と僕とはキャリアが違うんですよね。

平川：僕は父の影響で13歳のときに、ゴーカートに乗りはじめました。その前は自転車レースをやっていました。

中山：免許を取る前から乗っているっていうのは一緒ですけど、中学生から乗りはじめてドライバーにこんなに早くなっている人はいないですよね。普通は小学生くらいからやっているドライバーたちの波に乗れずに、はじかれてやめてしまうことがほとんどです。平川は本当に稀なケースですね。やっぱり努力かな？

平川：どうだろう。もちろん練習もたくさんしたし、他の選手よりは1年1年を濃く過ごしてきたかな？と思います。はじめたばかりの頃は、遊び半分でやっていたんですけど、1年間カートに乗って、次の年にジュニアレースに参戦し、初戦に優勝でき、シリーズチャンピオンになれた。このとき、これで将来飯食っていこうと思い、家族と相談してレーシングドライバーになろうと決心しました。だから今も頑張れているという感じです。

カルダレッリ：僕は、6歳からゴーカートをはじめ、15歳からフォーミュラカーへ、そして17歳でF1のテストドライブをしました。プロのレーシングドライバーとしてやるためにはレーシングカーにいつぐらいからの乗るのかを考えるのは大事ですね。

Q モータースポーツと言いますが、体を動かすというイメージがないのですがスポーツなのでしょうか？

関谷：僕は野球やゴルフ、サッカーなどあらゆるスポーツの中で、モータースポーツはもっともエキサイティングだと思ってる。レーシングドライバーは、おそらくあらゆるスポーツの中で人間の能力を最大限に必要とします。例えばね、スーパーフォーミュラに乗っている選手の心拍数はアベレージで185、最大200あるといわれています。

中山：180～190の心拍数というのは、400mダッシュした直後くらいといわれているんですけど、その心拍数で90分間走り続けるのがスーパーフォーミュラです。GT300はダッシュではなくてジョギングかな。ただしジョギングとはいっても室内温度は高いので、サウナの中で全身タイツを2枚着て、重いハンドルを動かしながらのジョギングです（笑）。

関谷：普通は心拍数が高くなれば、脳に酸素がいかなくなって思考能力がなくなってしまう。だけれどもそのときに的確な判断をできるようにしなければならないライフル射撃のような的確性が必要だね。あとはボクシングのようなファイティングスピリッツ。そしてゴルフで打感を感じとりながら手足を動かすように、タイヤや路面から伝わってくるものを感じる能力も必要。人間の持つ能力をすべて、最大限に引き出せる人でないとレーシングドライバーにはなれないんです。

平川：身体能力のキャパを広げておくことが重要ですね。運転することで身体能力が振り切ってしまったら判断力が鈍ります。だから余裕を持って酸素が吸えて脳を動かせるようにしないとダメです。僕は毎日ではないですけどトライアスロンをしています。

Q 平川選手と中山選手は「インタープロトシリーズ」で戦うわけですが、関谷監督が生み出したレースなんですね？

関谷：そうです。例えばSUPER GTなどはトヨタやホンダ、日産といった自動車メーカーの戦略的なレースなんです。言い方は悪いけど、ドライ

中山選手はインタープロトシリーズのレースでは「KeePer」の称号をかかげ、戦っている。KeePerでつながる3人の選手はプライベートでも仲が良い

SUPER GT500 レースでポールトゥウィン（予選１位、決勝１位）を達成した「KeePer TOM'S LEXUS RC F」

インタープロトレースでは平川選手（左）と中山選手（右）のバトルが白熱する。最後まで目が離せないレースになりそうだ